



社会保険点数の改定の伝達講習会

4月1日(木)から実施の点数の改定に関する講習の伝達を3月26日(木)ホテルスエヒロで実施する。高齢のせい、年々改正のたびに自分だけであるかも知れないけれど、理解というか飲み込みが悪くなって困ってしまう。

学術講習会

3月28日(土)ホテルスエヒロにおいて肢体不自由児施設の歯科医療に関して、講師に旭川赤十字病院口腔外科副部長大坪誠治先生をお願いして受講した。脳性マヒ児の場合、身体機能に遅れがみられるだけであり、カナダでは障害児をチャレンジ中の子供と呼ぶそうである。健常児と比較しないことが大切であるそうである。当日は美唄歯科医師会のパラデンタルスタッフ多数も出席受講したことは、福祉の街を目指している美唄市にとって有意義な1日といえる。

遂に来るべきものが

道内保健所の再編整備によって、4月1日(木)管内の美唄・由仁・夕張の保健所が岩見沢保健所の支所に、砂川・芦別の保健所は滝川保健所

の支所として生まれ変わるという聞こえは良いが半分程度になってしまうのだから情けない。美唄の場合、保健指導、調整各係と生活衛生係の3係のみとなり許認可などの業務はすべて岩見沢保健所に集約されることになり、職員も現在の48名から67名に、保健婦も6名から8名に増員し、業務の円滑化のため月1回の支所長会議をするという。滝川保健所も職員が26名から40名に増員されるという。美唄支所は職員数は昨年までの半数以下の10名に満たない人数の淋しいものになってしまった。

集約化は時代の流れ、2年後に予想される再編見直しを踏まえ、住民のためのサービスに何が残せるか、お役所本位でないサービスを考えてゆきたいとしているが？従来2、3日で成った許可が1週間以上もかかるであろう1、2年後の介護保険導入を踏まえ、要介護認定を行う市町村の職員に対する技術指導などに充分な力を入れてもらえるか？人口は減っても高齢人口だけは確実に他より増えている美唄市の場合特別に心配でならない。

(雨田 実記)